

1ページの LOVE STORY

キミイ

目次

チョコレート☆Kiss

なまえ＊

心の内 燃えるheart beat＊

彷徨いの愛＊

優しさの向こう側＊

機嫌が悪くても＊

大切に甘い会話＊

妄想＊

帰り道＊

遠くから＊

繋いだ手＊

ただ君が好き＊

知らない街

土日祝日

君の話

背中

一年目の僕と君

次の約束はない

夢・1

夢・2

もしも明日が

思い出の一言

男と女のズレたハート

スペシャル

いじわるな君

背徳の心

安らぎ

感謝のしるし

愛してる

Keep Only One Love

あなたに会えてよかった

雨

愛はここに

プライド

霞のかかった君へ

秘密の部屋

二人だけの時間

元気をありがとう

好き

君に贈るホワイトデー

*が付いている作品は再編集して加えました

バレンタインデーじゃないけど
バレンタインデーに近い日のデート

たまにしか会えないあなただから
あなたに渡す小さなスイートな箱

家には持ち帰れないから...

ここで食べよう

小さなチョコレートを

一粒

あなたの口へ入れてあげる

あなたが嬉しそうに笑って

私の口にも入れてくれた

大人の味だね

あなたが言った

そうね

私が切なく笑った

あなたが私を引き寄せ唇を重ねる

熱くトロける口の中

チョコレート味のKissは

少し甘くて少し苦い

大人のバレンタインデーの味がした

なまえ...

あなたの名前を意味もなく呼んでみる。

呼んでも届かない。

だって、あなたはここにいない。

あなたの名前を口にするだけで胸が苦しくなる。

声が聞きたくなる。

なまえ...

あなたの名前を意味もなく綴る。

文字から溢れるあなたの人柄。

綴るだけで、胸が熱くなる。

ねえ、今何してるの？

なまえ...

ほんの少し勇気を出して、

あなたのナンバーを押して、声が聴こえたら...

ちょっと小さな声で呼んでみた。

「どうしたの？」

あなたの声が優しくて鼓動が早くなる。

「何でもない、呼んでみただけ」

電話の向こうであなたは笑ってる。

ホントはね、

好きよ。

そう言いたかった。

でも名前しか呼べなかった。

あなたが私の名前を優しく囁いた。

「なに？」

「好きだよ」

胸が震えた。嬉しくて、嬉しくて、

笑みが零れた。

なまえ...

今度は少し自信に満ちてあなたの名前を口にしました。

「私も好きよ」

あなたの小さな笑みが聴こえた。

あなたの照れた笑顔が見えるよう。

私はフワフワと心が飛びそう。

あなたに向かって飛んで行きそう。

叶うなら

今すぐ会って

あなたの側で、あなたの瞳を見て

あなたの名前呼びたいよ。

なまえ

あなたの名前を口にして

私の名前を呼ばれて

甘く唇を寄せたい。

そんなこと考えてる。

心の内 燃えるheart beat

あなたの全部が欲しい

そう言えたらどんなにか楽だろう

私はあなたを凄く好き

そう言えたらどんなにか胸の痞えが取れるだろう

なのに上手く言えないの

何故か

怖いのよ

あなたがこの気持ちを受け止めてくれるか

君はどうして甘えてこない？

僕がこんなにも愛しているのに

見えない防御線にも感じるんだ

それは傷つかないため？

それなら心配はない

僕はちゃんと君だけを見ている

君しか見えていないよ

こんな私でもいいの？

私はそんなに可愛くない

こんな私のどこがいいの？

周りはみんな華やかでキレイな人ばかり

私は平凡だから

自信がない

君の声が好きだ

君のひたむきさが好きだ

君の無邪気さが好きだ

なにより僕に向ける笑顔は

僕を幸せな気分にしてくれる

君なしではいられない

たとえ君が僕を見なくなっても

僕は君を見てしまうだろう

愛してしまうだろう

あなたを信じていい？

あなたを愛していい？

私の気持ちはあなたと同じ？

そんな不安を口には出来ず

あなたの隣に座っている

この位置がずっと私の位置ならいいのに

君の不安を取り除きたい

君の不安げな瞳が切なくて

僕はどうしていいかわからず

ただ君の手を握った

大丈夫

僕の気持ち届け

あなたの手あたたかい

大きくて優しい手

どうかこの手を離さないで

ずっとずっと握っていて

私はなんだかホッとして

あなたに少しだけ寄り添ってみた

あなたに届け

私の気持ち

君が少しだけ甘えてくれた

君が少しだけ心を見せた

嬉しくて

嬉しくて

思わず君を抱きしめた

小さくか弱い君は僕の腕の中でふるえてる

だからもっと強く

抱きしめる

ほら、僕はこんなにも愛してる

不意にあなたが抱きしめるから

鼓動が高鳴り胸が痛くなる

ぎゅっと抱きしめるあなたの腕

聞こえてくるあなたの鼓動

ドクドク早い

同じだね

君が僕を見つめた

僕も君を見つめる

ほら同じなんだ僕達は

こんなにも互いを求めてる

僕は君に吸い込まれていくよう唇を重ねた

あなたの甘い唇に私の心は溶けてゆく

小さな不安も自信のなさも

何処かへ行ってしまって

ただただあなたが好きなだけ

あなたの愛を感じるよ

私の愛も感じて

だから私はもっと熱く唇を寄せる

君の真っ直ぐな愛を感じる

さあ、二人で最高の愛を確かめよう

君と二人夢の中へ

永遠に続く君への想い

君に今注ぐから

君はただ僕に全てを委ねればいい

ずっとずっと変わらぬ気持ち

ずっとずっと変わらない愛

それを信じて

それを願い

私はあなたを受け入れる

今夜もあなたの胸の中で...

君はどうして不安がるの？

僕はちゃんと君の事大切に思ってる

いつだって会いたいと思ってるさ

だけど24時間へばりついているわけにはいかない

僕は仕事も趣味も友達も大切だ

どれも僕が生きる為の大切な部品だ

君を一番に大切に思ってるけど

時々疲れて手を抜いてしまう

君の愛に甘えておざなりになってしまう

ごめん

だから、泣かないで

僕はちゃんと君が好き

君が思うよりもっとずっと君が好き

だけど

上手く言えなくて

気づいたら

君の愛は消えていた

君はもう僕を見ていなかった

無くしてはじめて気付くんだ

君が笑ってくれたから

君が癒してくれるから

僕は仕事も趣味も友達も楽しく頑張ってこれたんだって

どれだけ君の存在が僕にとって大事だったか

今更気付いても後の祭りだ

君がない今

無性に心が寒い

それでも

今日も明日も明後日も

容赦無く訪れるから

僕は先に進まなきゃ

どうしようもなく寂しくなったなら

新しい君を探そう

きっとまた僕を優しく包んでくれる

新しい愛が僕を癒してくれるだろう

その時は

今度こそ愛に甘えないで

おざなりにしないで

大切な君だけをちゃんと見つめよう

なんて

いつも思うんだけど

上手くいかない

なんでかな？

それでも僕は懲りもせず

癒しの君を求めさまよう

僕は寂しがりやだ

別れ際

私の手を握るあなたは

ただ、黙って引き寄せ抱きしめる

離れ難くキツく、キツく抱きしめる

口づけは長くて甘くて

思わず涙が出そうな程

優しいキス

なんの言葉はないけれど

だけど

伝わる優しさの向こうには

きっと

あなたの本当の気持ち

切ないほど伝わるの

ねえ？

信じていいですか？

言葉にしないあなたの愛は

きっと言葉にすると

嘘っぽくて陳腐だから

だからあなたは

優しくただ抱きしめるだけ

今はこの優しさに甘えよう

それが真実でも偽物でも

私があなただから

離さないでと言葉にせず

しがみつくだけだ

ただ、ただ

私達は抱きしめ合う

なんの言葉も交わさずに

優しさだけを見せつけ合いながら...

機嫌が悪くても

そばにいと

小さな事が

一々癪に障り

腹立たしく思う時がある

言わなくても

気づいてよ

わがままな要求が

苛立ちを募らせる

あなたは気づいているのか

気づいてないのか

でも雰囲気は分かってる

今はなんだか

危ういムード

ピリピリとしたこの空気

重い

そんな状態でも

私達は同じ部屋で過ごし

ベッドも共にする

一緒に居たくないから

背中を向ける

もう

知らない

悪化する感情は

意地を張るばかり

よく朝、何食わぬ顔で

出かけるあなた

その顔に

また腹が立つ

だけど

あなたが

いなくなると

ちょっとさみしかったりして

ホントは

いってらっしゃいって

笑顔で送ってたかったのに

素直になれない

夜あなたがまた笑顔で帰ってくる

まだ怒ってる？

そう言いながら

お土産を抱えて笑ってる

ああ、またモノで誤魔化すのね

あれ？

私何で怒ってたんだろう？

機嫌直して

後ろから抱きしめられたら

何だか背中があったかくて

どうでも良くなった

こうして

あなたと私の毎日は

またはじまる

何事もなく

ただ穏やかに

きっと

きっと

この先

どちらかが

永遠の眠りにつくまで

きっと変わらない

私達の暮らし

時々機嫌が悪くなるけど

その時は

ぎゅっと抱きしめてね

きっとすぐに

笑顔に戻るから

君と僕の会話は

メールが多い

たいした話の内容じゃない

おはようとか

天気とか

何食べたとか

くだらない

くだらないけど

君が今なにしてるかが分かると

嬉しくなる

ホッとするんだ

今日も一日君は元気に過ごしてる

たまに寂しそうな時もある

ごめんね

僕のせいだよ

好きだよ

僕の気持ちを送ると

君は嬉しそうな絵文字を送ってくる

君が元気になった

君が元気だと嬉しくなる

ああ

今日も一日が終わるよ

また明日ね

僕と君のくだらないけど大切な会話

時々甘い秘密の会話

ねえねえどこか行きたいね

行きたいね

どこ行きたい？

そうだなあ～遠いところがいい

海外とかは？

いいね、ベガス？LA？NY！

アメリカばかりね

じゃあ、南の島

楽園だね！いいね...行きたい

いつか...行こう

行くわけないのにあなたは言った

私は目を綴じてしがみつ

楽園はあなたと私の胸の中だけ

妄想という世界にしか存在しない

それでもいい

二人でどこまでも行こう

遠い遠い誰も知らない世界

二人だけしかいない世界

きっと素敵な楽園だから

オレンジ色に染まる空

君と歩く帰り道

赤トンボを追う君に

なんとが胸が騒いだ

いつも一緒なのに

いつもと変わらない帰り道なのに

何故だろう

君の笑顔がいつもより

大人びて見えた

毎日君を見ているが

今日の君はきれいだよ

夕日を浴びて

ものすごく美しく

胸が締め付けられた

来年は僕たちは離れ離れ

この道を君と歩くのは

後何回だろうか

きっと僕は

君とは友達のまま

いつか記憶の端になる

君が僕の名を呼んだ

僕は君を追い掛けた

君の指先に赤トンボが止まっていた

遠くから

校庭を走るあなたを

このフェンス越しに見つけたのは

桜散る暖かな季節

帰りのバスを待つ10分間

私はあなたに熱い視線を送るのが毎日の楽しみ

マフラーをギュッと締め直し

手袋をした手でフェンスを握る

今日もあなたは走っている

あなたのひたむきな頑張りに

私はエールを送る

あなたのしなやかに伸びた手足に

私はときめく

バスがきた

一本見送ろう

今日はもう少しだけあなたを見ていたい

私の視線に気づいてくれたらと

ほんの少し期待しながら

ドキドキしながら

夕暮れの帰り道

赤い空を見上げる君の横顔が

とても切なくて

思わず手を握ったんだ

君は黙って強く握り返してきた

僕達は何も言葉を交わしてない

なのに繋いだ手から

伝わるんだ

まだ今日は帰りたくない

僕はその手をしっかり握りしめ

夜が始まる街へと歩き出した

今日は君を離さない

僕の繋いだ手が君に語っていた

君は応えるようにキュッと強く握る

言葉にならない溢れる熱い想いは

いつだって触れ合えば分かる

手を握れば分かる

君と僕の間隔はないから...

ただ君が好き

ただ君が好き

僕の隣でまた君が不貞腐れてる

僕の隣でまた君が泣いている

僕の隣でまた君が笑ってる

僕の隣でまた君が甘えてくる

僕の隣の君はとにかく忙しい

なんで私が好きなの？

どこが好きなの？

なんだが一人盛り上がったたり盛り下がったり

答えにくい事を次々聞くんだ

あのさ

わかんないけど

ただ君が好き

君が好き

君が照れてはにかんだ

僕はたまらなく君が愛しくなって

やっぱり君が好き

知らない街

知らない街

君と待ち合わせはいつもこの街

君の家からも僕の家からも少し離れた知らない街

誰も知らない街だから

君の小さな手を握ってみた

あったかい

君の横顔がはにかんだ

冷たいね

僕がそう返し

僕のコートのポケットに

君の手も一緒に突っ込んだ

誰も知らない街だから

僕らは恋人になれる

ほんの少しだけ

現実から逃げ出した

僕ら

この街の人々は

そんな僕らを気にも止めない

土日祝日

あなたとの楽しいやり取りは

私をいつも元気にしてくれる

おはようからおやすみまで

何気ない会話だけど

会えないからこそ

それだけが楽しみ

だけど土日祝日は

パタリとあなたは姿を消す

私のメールは鳴らなくなって

私の元気も消えてゆく

気晴らしに映画でも行こうと

街へ出てみると

一人ぼっちは私だけ

虚しくなって映画館の前で

踵を返す

土日祝日は嫌い

土日祝日は嫌い

あなたの好きな小説と

あなたの好きな音楽を

ボリュームいっぱいにして

やり過ごそう

月曜日が待ち遠しい

土日祝日のあなたが欲しい

君の話は実にくだらない

マジどうでもいい話

だけど僕に一生懸命話す君が可愛いよ

それをいつまでも見ていたいから

僕は聞く

ふんふんと相槌を打ち

話は右から左だが

表情がコロコロ変わる君を

この目に留めておきたい

聞ってる？

君がちょっとむくれて聞く

聞してる、聞してる

僕は笑いながら応えるんだ

君はまた話し出す

くだらない話

一生懸命話す君

僕は眺めてる

ベッドに腰掛け

ワイシャツのボタンを掛けている

そんなあなたの背中に寄り添った

皺ひとつないシャツの向こうに

見たくもないあなたの世界が見えて

頬を寄せてしまおうか？

唇を押し付けてしまおうか？

少しだけ欲張りな気分になった

だけどそんな悪さはできないから

結局あなたの背中に

涙を一粒溢しただけ

あなたは気づいていない

いつもの時間会えない日の日課のメール

私達一年経ったかなあ

君が言った

そうだね早いな

僕がこたえた

一年経ってもまだ好きだね

一年過ぎてても好きだよ

会いたいな

会いたいよ

そんな甘いメールを久しぶりにした

だけど僕は思うんだ

会えなくても僕は君をずっと好き

来年も再来年も君を好き

そんな気がする

次の約束はない

次の約束はない

そろそろ行きますか

重い腰を上げた

部屋を出る間際

ドアの前で

君はいつも切なく僕を見つめる

僕はそんな君の気持ちが見えるから

思い切り抱き締める

次の約束はしていない

でも次も会えると信じて

そんな君の不安を消すように

キツくキツく

抱き締める

行こうか

うん

あれから僕と君は

会っていない

君の切ない瞳が

時々胸を刺す

すまない

心でひと言呟いた

君の夢をみた

沢山の人混みの中

君を見つけた

君が私に手を差し伸べた

君の手を取ると

君はしっかり握った

走れ走れ

二人で走って

車に乗り込む

君と私は何処に行くんだろう？

夢はそこで終わった

でも気持ちは一緒だった

笑っていた

良い夢だった

また君の夢をみた

偶然に駅前で出会う

お互い連れがいるのに

引き寄せられるように人影に

会いたかった

君が私の頬を取る

よく言うわ会おうとしなくせに

そう言った私の唇を塞いだ

抱きすくめられ

私は胸が苦しくなって

好きが隠せない

溢れる程の想いを

お互い感じていた

もう行かなくちゃ

君は名残惜しそうに私から離れていく

最後の指先が離れ

君は足早に去って行った

束の間の抱擁は終わった

こんな夢を私はまたみるのだろうか

もうみたくないような

みたいような

今日も君に会いたいです

もしも明日が

もしも明日が

ひとつのベッドで無邪気に戻った君を楽しむ

ねえ

もしも明日がなかったらどうする？

突然突拍子もない事を聞いてきた

そうだな

ギターを好きなだけ掻き鳴らすよ

そっかあ

そうだよね

君はちょっぴり寂しく言った

それから

君と沢山Kissしたいかな

そう言ったら

君が嬉しそうに擦り寄ってきたから

僕は抱きしめKissをした

でももし

もしも明日がこないなら

君にありがとうと言いたい

君がいてくれて良かった

思い出のひと言

楽しかったあなたとの時間

窓の外を見ると空はオレンジ色に染まっていた

残り僅かな時間を惜しむように

あなたは後ろから抱きしめた

夕方って嫌い

私が言うと

寂しい時間だな

とうなじにキスをした

でも...綺麗だ

そうね

巻きついたあなたの腕に

私の手を重ね

オレンジが濃くなってゆく空を

二人で眺めていた

日が沈む頃は

私もあなたもそれぞれ違う場所で

違う世界を見ているのだろう

そんな昔を思い出しながら

夕暮れのスーパーから

空を見上げた

綺麗だ

あなたのひと言が

耳に聞こえた気がした

男と女のズレたハート

久しぶりの君とのデート

ゆっくり過ごしたいのに

君はちょっぴり拗ねている

やだなあこの空気

どうしたの？

最近メールが少ない

仕事忙しいんだ

最近すぐ寝る

疲れてるんだ

最近好きって言ってくれない

言わなくても分かるだろう

だってなかなか会ってくれない

今こうして会っているじゃないか

求めてばかりの君に

少しウンザリしながら

君の唇を塞いだ

こうして君を抱いてしまえば

君は満足かい？

多分違う...

ズレたハートは多分そのまま

ちょっと君が重く感じた

今日この頃...

そんな自分に

少しウンザリしながらも

事後は寝たふりをする

僕の前でキラキラと君がしている

君は幼かったり

大人っぽかったり

泣いたり

笑ったり

忙しい人だ

そんな君から目が離せなくなって

気付けば君の事ばかり

調子に乗って

君と僕は特別

と言ったら

君は少し考えて

特別な関係なんてない

と否定した

あなたと私はどこにでもいる

ただの恋人

そう言って笑った

恋人...

そうかもしれないけれど

僕にとっては

やっぱり君は特別

ほらまた君が僕の中で飛び跳ねた

いじわるな君

久しぶりに会った君

ドキドキして上手く話せない

君は平気な顔して

ジッと見るから

余計ドキドキ

そんな目で見ないで

身体が熱くなる

僕と何したい？

いじわるな君は

余裕な笑みで聞く

Kissして欲しいなんて

言えないよ

いじわるしないで

顔を赤らめて言う

君はまたいじわるな顔で

言わせたいんだ

僕に何して欲しい？

と聞いた

君の瞳がセクシーに光る

Kissして欲しい

了解...

君の久しぶりのKissは

甘くて愛が溢れてた

I love you

聞こえてきそうな

甘いKiss

路上であなたが切なく笑った

また連絡する

うん

私はあなたの背を見えなくなるまで見送った

会えなくなると

寂しいのに

会えば

嬉しいのに

帰りの別れは

何故こんなにも苦しいのだろう

出逢って惹かれた瞬間から

この恋の結末は分かっていた

分かっているのに

私達は会わずにいれなかった

そして今尚、私達は離れられない

結末は分かっている

だから苦しい

だから切ない

分かっているから

後ひと月、後一週間、後一日...

欲張りなあなたへの気持ちが

今日も私を支配する

さっき別れたばかりなのに

あなたからのメッセージがきた

今日は会えて良かった

また会える日を楽しみにしている

単純に嬉しかった

だけど...

やめなきゃ...

なのに...

やめれない

行ったり来たりのチグハグな頭と心

結末は分かっている

あなたと私の不道德な恋

いつかは言おう

さよならと...

メッセージがまたきた

今から帰る

私は足早に家路に向かった

あなたの大きな背中にしがみついてみる

「おっどした？」

あなたはちょっと驚いて笑ってる

「なんでもない」

なんでもないけどちょっとだけ

ちょっとだけ甘えたくなったの

なんだか広くて大きくてあたたかいから

今日はちょっとイヤな事あった

カチンときた事あった

けど話す事でもない

大した事じゃない

だけどここにしがみついて

あなたの背中に寄りかかったら

ほら、もう大丈夫

明日はきっと笑えるから

何にも言わない背中だけど

私にはいつでも頼れるあなたがいる

いつでも甘えられるあなたがいる

素のままの私を愛してくれるあなたがいる

もうドキドキもしない

キュンキュンもしない

でも手放せない安らぎがある

だからしばらく...もう少しこうしていさせて

今あなたの愛をチャージ中

感謝のしるし

風邪ひいたみたい

少し弱気なあなただけど

いつも通り仕事に向かった

今夜はあったまるものにしよう

スーパーであれこれメニューに悩む

夕刻いつも通りあなたが帰る

今日は鍋焼きうどんだよ！

おいしいね！

あなたが嬉しそうな顔をした

ちょっと無理しても頑張るあなたに

感謝の言葉は今更言えないから

あなたの好きなお料理で

毎日伝えたい

ありがとう 頑張っ！

と...

愛してる

愛してる

最近ゆっくり話せない君に

夜遅くメールした

遅かったね 忙しそうだね

それだけなのに

文字から見えないはずの

君の気持ちが見えた

大丈夫

ちゃんと君の気持ち届いてるよ

不安にならなくていい

色々あるし色々忙しいけど

僕は君をちゃんと想っている

僕の気持ち君に届け

次の休みには会おう

君に会う日はもうすぐ

君の話聞きたい

君の笑顔見たい

君の甘える仕草

君の甘い声

君の唇

僕にしか見せないあの艶

何より君の全てを肌で感じるあの瞬間

僕は忘れた事など一度もない

君は僕の恋人

離れていても君の手は離さない

僕の心は君から離れない

君の気持ち僕の気持ち

ずっと一緒だ

滅多に言わないけど

愛してる...

きっと今君は嬉しそうに

笑っているだろう

Keep Only One Love

Keep Only One Love

あなたがうつ伏せで

カチっとライターに火を付けた

私はシーツを引き寄せ

煙草を吸う口元に手をやる横顔を

なんとなく見ていた

ふうっと薄い煙が部屋に飛ぶ

あなたの煙草の香りがした

ねえ一本頂戴

どうぞ

私もあなたに並んで

煙草の箱に手を付けた

KOOL

CのCOOLじゃないのね

ああ

Keep Only One Loveの意味だよ

ふふ

笑いながら

煙草に火を付け

ふかしながら

また笑いが込み上げた

なんだよ

だって全然あなたに似合わない煙草

Keep Only One Love

一つの恋を貫き通すだって

笑いながら一服してると

あなたは私の煙草を取り上げた

貫き通すよこの恋は

そう言って唇を寄せた

煙草の残り香が残るキス

切なくて泣き出しそうな

キスだった

あなたに会えてよかった

あなたに会えてよかった

日曜日の午後

近くの公園で芝生の上で寝転んだ

太陽が眩しいから目を閉じる

ねえ、覚えてる？

あの日出会ってすぐに好きになったの

覚えてるよ

出会ってすぐに夢中になった

あるんだねこんな事

あるみたいだねこういう事

あれから随分経つけど

私達はまだ仲良しで

こうして青空の下

なんにもしなくても

あなたが隣にいるだけで

幸せを感じた

あなたが私の手を握ってくれた

私も握り返した

あなたも今幸せ感じた？

繋がる気持ち

同じ幸せ

嬉しいな

あの日あなたに会えてよかった

雨

雨

夕刻、少し前

窓の外は相変わらずの雨...

灰色の空を見上げ

温かいカフェオレを身体に流す

だけど心までは温かくならなくて

ふとあなたを思い出した

雨の日に一日中愛し合った日のあなたを...

ちょっと寂しくなって

あなたの声が聞きたくなって

電話を取った

途中までナンバー押して

手がとまる

いつからだろう

上手く甘える事ができなくなった

きっとこの恋はもうすぐ終わる...

雨音は忍び寄る別れの音にも聴こえた

熱い二人は雨で消されてしまった

私は二杯目のカフェオレを飲んだ

愛はここに

一段上のエスカレーターに乗り

上っていくとあなたと

同じ目線になった

顔が至近距離になるから

ちょっとだけドキドキするよ

恥ずかしくなって横を向いたら

ほんの少しだけ

あなたの唇が頬に触れた

あれは私もあなたも若い頃

今は互いに子供の手を繋いでる

家族が増えて

愛が増えて

あなたと私の恋ゴコロは

消えてしまったけど

愛はここにある

私は小さな手を握りしめた

あたたかく柔らかい

優しい気持ちになった

あんなに甘ったれだった君が

ちょっとそっけない事に気づいたのは

三日前のメールからだ

せっかく今日は二人きりなのに

君はさっきから何度も携帯を気にしている

この後どうする？

うちくる？

君は少しの間を置いて

今日は帰る

と断わった

窓の外を眺める君は

退屈そうだ

別れ際いつも通り

笑って手を振る君が

遠く感じた

欲しいなら追いかければいいのに

欲しいなら手を離さなきゃいいのに

小さなプライドが

僕の手を振らせ

僕の足を進ませた

多分

この先に君という道はないだろう

胸が少し

痛む

霞のかかった君へ

霞のかかった君へ

君が去った後は

優しかった君の言葉

君の微笑み

君の仕草を

もう一度見たいと

引き戻され

苦しみ、悲しみ

辛さゆえに

君を憎み

君を恨み

君を嫌いになる事で

前に進もうと必死だった

しかし時は優しく

君の記憶を

少しずつ美しくしてくれた

君との会話は何一つ思い出せず

君には霞がかかりボンヤリと残像だけ

どんなクセがあったかも忘れてしまった

だけど...

君と過ごしたこの場所に

君と行ったこの店に

君と笑ったこの学び舎を

通りかかるだけで

胸の奥がツンとなり

君に恋した心の記憶が

蘇る

僕は切なくなって

空を見上げる

元気にしていますか？

僕は元気です

あの頃よりシワの増えた顔で

霞のかかった君に笑いかける

窓の少ないこの場所は

君と僕の秘密の部屋

君と出会いこの部屋を借り

最初こそ狂ったように愛し合い

笑い語り合った

今は互いを確かめるように愛し

静かに語るようになった

会う度に

君の刹那な瞳に

苦しくなり

愛しくなり

悲しくなる

別れ際は

君を連れ去りたくて

もどかしくて

切なくて

寂しくなる

もう潮時だ

僕は意を決して君に言う

そろそろこの部屋返そうかと思うんだ

いいわよ私は

君は泣きそうな瞳なのに口は笑っている

私達は現実にはいない

この部屋もあなたも消えても

私は変わらず生きてゆけるもの

だから泣かないし笑ってられるわ

君は更に口角を上げた

そんな君を抱きしめずにはいられず

キツく抱き締めた

君はこうして現実にいるじゃないか

悲しいこと言うなよ

小さく君が嗚咽した

手離せない

やっぱり君もこの部屋も

最初は軽いつもりだったのに

遊びだったのに

気付いたら

狂おしいほど君を愛してしまった

先にもゆけず

後にも戻れず

苦しい愛にもがき続ける

僕達に

最後はどんな結末が

用意されているのだろう

小さな小窓に月明かりが蒼く見えた

二人だけの時間

二人だけの時間

二人だけの時間

久しぶり

こんな時間は甘えたい

だから、あなたの肩にちょっと凭れて

腕に絡みついて

手を繋いで

のんびりしちゃう

話はなんでもいいの

こんな所行った

こんなの食べた

こんなテレビ観た

あなたの声が心地良く

凭れた耳に伝わる

私は胸がきゅうってなって

あなたの首に腕を伸ばし

あなたの胸に顔を埋める

トクトクと波打つあなたの鼓動

見上げるとあなたは微笑んでいる

優しく愛おしい眼差しで

好きよ

照れるから

恥ずかしいから

言えないけど

私はまた顔を埋め、抱きつく

あなたの手は私の背中を優しく撫で

ぎゅっと抱き寄せた

二人だけの時間

思い切り甘えたい

思い切りあなたを感じたい

また離れ離れになるから

限られた時間の中で

二人だけの時を大切にしたい

元気をありがとう

元気をありがとう

毎日毎日

家と会社の往復

ちょっと忙し過ぎだ

たまには何にもしないで

リラックスしたい

そんな時

必ず君を思い浮かぶ

君とゆっくりしたい

君の柔らかい胸で眠りたい

君の笑顔に触れたいよ

そうだ、電話をしよう

ツーコールで君と繋がった

もしもし元気？

元気だよ！

君の声が優しく耳に届いて

心が明るくなり

笑みが零れた

僕に元気をありがとう

次に君に会える日まで

なんだか頑張れそうだ

好き

好き

君がニタリと笑う

あゝまただ

また何やらイタズラな事を考えてる

「私の事好き？」

君は僕の顔を覗き込む

分かってるくせに

僕が意外と照れ屋な事

「君と同じ気持ちだよ」

そう答えるので精一杯だ

君から笑顔が消えた

膨れてそっぽを向いた

好きって言ってほしいなら

君から言ってよ

僕だってたまには聞きたい

今度は僕がニタリと笑った

君の頬を捉え、僕は君を見つめる

君も僕をジッと見る

「ねえ、僕の事どう思ってるの？」

君はちょっぴり困ってる

だけど小さな声で

「好き」と呟いた

はにかんだ君がたまらく可愛い

「その言葉待ってた」

愛しい君を抱きしめた

「僕は君が好きだよ」

なんだか素直に言えたんだ

君の好きと僕の好きが重なる瞬間が

僕は一番好きだ

君に贈るホワイトデー

君に贈るホワイトデー

ホワイトデーってなんだよ

そもそもお菓子会社が作ったんだろ

チョコレート貰っておいてなんだが

偉そうに言った

それもそうだよな

君は僕に合わせて笑っていた

きっと君は何も貰えないと思っただろう

ねえちょっと手を出してごらん

君が不思議そうな顔をして手を出した

君の手に小さな箱を乗せる

君はワクワクと箱を開けた

お菓子じゃなくてごめんね

君は嬉し涙を流した

ホワイトデー

僕は君に...永遠の愛を贈る

君の指に愛の証が光り輝いた

あとがき

最後まで読んで下さりありがとうございます。

甘かったり切なかったり悲しくなったりドキドキしたり懐かしんだりほっと優しい気持ちになったりのラブストーリーを40話。

ぎゅっと1ページに詰めこんでみました。

どのストーリーもそれぞれの男女のちょっとしたハートを切り取った作品です。

皆様のストーリーに思い当たることあってくれたら嬉しいです。

2014.2.14～2014.3.14連載

再編集2014.6.8

1 ページのLOVE STORY

<http://p.booklog.jp/book/86041>

著者：キミイ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kimiynoheya/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86041>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86041>

freedesignfile.com 表紙

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ